

令和 8 年度 福島県 英語教育改善プラン

目標

「内容や時間のまとまり」を見通した単元構想による学習指導と学習評価の充実
～評価方法（基準）の具体化による指導改善～

☒言語活動
 ☒指導と評価の一体化
 ☐教師の英語力・指導力
 ☒校種間連携
 ☐ALTの参画
 ☐ICTの活用
 ☐AIの活用
 ☐その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

①言語活動について、児童や地域の実態を踏まえた目的・場面・状況等の工夫や中間指導の普及が見られる。

②R6全国学力・学習状況調査の児童質問調査において、「英語の勉強が好きか」や「授業の内容はよく分かるか」の項目は、全国平均を上回っており、外国語学習に意欲的な児童が多いと捉えることができる。

①単元内の評価計画において、必要以上の評価場面が設定されているケースや、領域や観点の評価時期の偏りなど、評価計画の適正化に課題が見られる。

②R5英語教育実施状況調査「話すこと」のパフォーマンステストの状況において、実施の割合は増加したが、100%には至っていない。

(R4:89.7% → R5:91.5%)

2. 要因分析

①小学校英語専科教員（ふくしま外国語教育推進リーダー）による公開授業等により、「言語活動を通した指導」についての理解が浸透したと考えられる。

②R6全国学力・学習状況調査の学校質問調査において、外国語教育の研修の取組状況に関する項目で、全国を4ポイント上回っており、積極的な研修の取組が授業改善に結びついたと考えられる。

①評価材料の収集が目的となっている傾向があり、児童の学習改善や教師の指導改善に連動した「評価の質の向上」まで至っていないと考えられる。

②各校においてCAN-DOリスト形式の学習到達目標の設定が進んだことと、研修テーマとして「ゴールを意識した単元計画」を掲げたことで一定の理解は進んだが、質的改善に取り組む必要があると考える。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②「ふくしま外国語教育推進リーダー活用事業」による、小中連携の推進

・小学校英語専科教員の公開授業や協議会等に中学校英語担当教員を交え研修を行うことで、指導法や指導内容についての理解を深め授業改善を図るとともに、校種間の円滑な学びの接続につなげる。

①②「英語担当教員エンパワーメント研修」による、年間を通した研修における授業力向上

・研修者自身が課題を設定し、年間を通じて、主体的・対話的・協働的な研修を実施する。

スタートアップ講座

・自身の課題把握
・授業改善のポイント
・研修計画書の提出

ブラッシュアップ講座

・授業実践シート提出
・グループ協議
・授業実践計画の改善

ラップアップ講座

・実践事例共有
・相互ふり返し
・研修報告書の提出

・研修内で単元及び評価計画の作成を課題とする。

①②「小中高連携推進事業」による、指導と評価の一体化の推進

・モデル地区で作成したパフォーマンステスト事例集を活用し、評価基準の具体化や評価方法の適正化を図る。

※ 一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組については、要件を満たす場合は採用試験において加点措置をし、資格取得者の増加を図っている。

令和 8 年度 福島県 英語教育改善プラン

目標

「内容や時間のまとまり」を見通した単元構想による学習指導と学習評価の充実
～評価方法（基準）の具体化による指導改善～

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：40.1%⇒R8：54.0%）

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☒ AIの活用
 ☐ その他

（パフォーマンステスト含む）

（AIを除く）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①「小中高連携推進事業」において、推進地域の教員による実践を基に、パフォーマンステスト事例集に取り組んだ。また、英語教育実施状況調査で推進地域における生徒の英語力が、13.8ポイント向上した。
（R5:31.3%、R6:41.9%、R7:45.1%）

②エンパワーメント研修において、授業実践の記録（PDCA）を継続した結果、参加教員の93%が授業力向上を実感したり現在の課題を明確化したりした。

未だ改善が必要な点

全国学力・学習状況調査の質問調査結果から

①「即興で自分の考えや気持ちを伝え合う活動」が大幅に低下した。他の技能と比較しても差が大きく課題である。

（R6 64.9% → R7 56.7%）

②「全体の概要や要点をとらえる活動」は肯定的な回答が8割を超えているが、R6と比べ低下している。

（R6 86.9% → R7 83.3%）

2. 要因分析

①「小中高連携推進事業」で教員が単元末のゴールを自ら設定することで「何ができるようになるか」という資質・能力をルーブリック等で具体化し、逆算して各時間の学習活動を計画したことが、授業改善、生徒の英語力向上につながったと考えられる。（推進地域）

②参加教員が研修の重点を自身の授業実施上の課題と結びつけて設定したことや、参加者同士で協議し、自身の単元計画をブラッシュアップしたことで、具体的な改善案を検討できたためと考えられる。（全県）

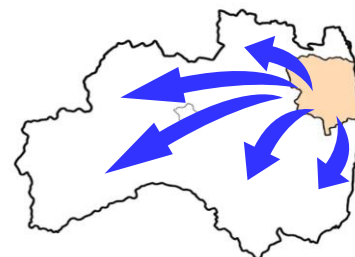
①即興的なやり取りや概要把握といった活動において、教師が「何を、どこまでできればよいのか」という評価基準

（目標）を具体的にイメージできていない可能性が考えられる。（全県）

②各時間の学習が「一文一文の理解」や「特定の文法の習得」に終始し、「内容や時間のまとまり」を見通した単元設計が十分でなく、学んだ知識を即興的なやり取りや、まとまった発表に繋げるための十分な時間が確保されていないことが考えられる。（全県）

3. 目標を達成するための施策・事業

「小中高連携推進事業」における推進地域でのパフォーマンステスト研究の成果及び「AIを活用したグローバル人材育成のための英語教育強化事業」におけるAIを活用した指導の成果を、「英語担当教員エンパワーメント研修」を通じて共有・発信することで、全県的な授業改善の普及を図る。



①即興的なやり取りの活性化

推進地域において、パフォーマンステスト事例集の作成を通じ、生徒の英語力をR5年度の31.3%からR7年度には45.1%へと着実に向上させた評価研究の成果を全県へ展開する。この事例集や具体化されたルーブリックを、全県的な研修である「英語担当教員エンパワーメント研修」で活用し、即興的な活動で「見取るべき生徒の姿」を具体的に共有する。これにより、教師の評価に対する不安を解消し、単元末のゴールから逆算して即興的なやり取りを計画的に位置付けるバックワード・デザインによる指導を全県的に普及させる。

②受容技能から発信へと繋げる統合的な指導の確立

これまで研修において不足していた評価に関する具体的な情報発信を強化する。特に、概要や要点を捉える受容技能の活動が、いかにして単元末のパフォーマンス課題（発信技能）へ繋がるかという評価の視点を事例集により具体物で提示する。エンパワーメント研修において参加教員の93%が授業力の向上を実感しているPDCAサイクル（実践の記録・省察）の枠組みを活用し、教材の難化に左右されず、一文一文の和訳に頼らない、目標と評価が連動した自律的なマネジメントを全県的に普及させることで、概要を把握する能力と発信力の双方の向上を図る。

パフォーマンステスト事例集



令和 8 年度 福島県 英語教育改善プラン

パフォーマンステストとALTの活用機会の充実による生徒の英語力の向上

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7度 : A2以上 48.2%、B1以上 23.4% ⇒R8度 : A2以上57.0%、B1以上24%)

目標

☒言語活動 ☒指導と評価の一体化 ☒教師の英語力・指導力 ☒校種間連携 ☒ALTの参画 ☐ICTの活用 ☐AIの活用 ☐その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①CEFR A2レベル相当以上の生徒数が増加した(参考 : R6 45.9% →R7 48.2%)
- ②パフォーマンステストの結果によって英語力の評価を行う学校が増加した。R5 16校 →R6 30校
- ①総合・実業系学校における、英語力の向上が課題である。
※A2レベル以上の生徒 R6:22.1% R7:24.4%
- ②パフォーマンステストの実施については、学年間の足並み調整や時間の確保に困難があるという声がある。

2. 要因分析

- ①各種研修会において、生徒の英語力の見取りの方法について、具体的事例を挙げたことで、評価の際にイメージをつくりやすくなったと考えられる。
- ②教員研修において、パフォーマンステストの充実を課題テーマとしたことで、パフォーマンステストの実践からの評価の充実につながったと考えられる。
- ①単位数の少なさ、ALTの不在等、英語使用や学習に対する必要性を感じる機会が少ないことが要因と考えられる。
- ②時間の確保については、進度への不安や学年内の方針への配慮が考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①ふくしまの高校生英語力診断
県内 2 9 校の 1・2 年生に対し、英語民間試験を実施。共通の試験により生徒の英語力の客観的に測定するとともに、結果についての分析会を持ち、教員間で課題意識の共有を行う。また、大学教授による授業改善に向けた講話や研修会を実施する。(事業当初は 2 2 校からスタートし、対象を拡充している)
- ②英語担当教員エンパワーメント研修
教員の授業力向上のため、当県の課題であるパフォーマンステストの実施とALTの活用をテーマとした研修を行い、実践と評価の充実により教員の指導力の向上を図る。
- ①ALT全校配置に向けた取り組み
身近に英語話者がいる環境は外国語習得にとって重要である。山間部の学校や小規模校へのALTの配置に向けた取り組みを推進する。
- ②授業改善に向けた研修会及び周知活動の充実
パフォーマンステストに対するノウハウの不足や、筆記試験のみによる評価からの脱却など、教員の意識改革が必要である。「英語で何ができるか」を見取る評価方法について、さまざまな機会を捉え、県全体の課題として取り組む。

福島県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		45	40.6	45	45.9	53.5	48.2	57		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		22	17.3	22	18	23	23.4	24		25	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		55	43.4	55	34.1	60		65		70	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		50	42.9	70	36.8	80		85		90	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	98.8	100		100		100		100	
		公表（％）	50	33.3	50		55		60		65	
		達成状況の把握（％）	55	54.3	55		60		65		70	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		65	66.6	67	71.1	69	77.8	71		73	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		55	29.9	55	25.6	56	23	57		58	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		45	35.8	45	38.2	48	40.1	54		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		75	60.2	75		77		80		82	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		90	79.5	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	96.2	100		100		100		100	
		公表（％）	45	38.8	45		60		80		100	
		達成状況の把握（％）	80	70.3	80		90		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		40	31.4	40	32.4	42	48.7	45		50	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		80	57.9	80		80		85		90	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	90	88.5	100		100		100		100	
		公表（％）	50	33.1	70		80		90		100	
		達成状況の把握（％）	80	73.2	90		100		100		100	